

平成 28 年度事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

公益社団法人日本馬術連盟（JEF）は、平成 28 年 3 月 3 日の平成 27 年度第 7 回定例理事会において承認された平成 28 年度の事業計画および収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

平成 28 年度に開催された特に重要な国際大会として、第 31 回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）（以下リオ・オリンピックという）があった。障害馬術および馬場馬術は団体でそれぞれ 4 人馬、総合馬術は個人枠で 2 人馬、過去最多タイとなる合計 10 人馬が出場した。障害馬術および馬場馬術は団体および個人決勝に進めなかった。総合馬術は、大岩義明選手が個人決勝に進み、20 位となった。

国際馬術連盟総会を 25 年ぶりに東京で開催した。76 カ国 309 名が参加し、東京 2020 大会の競技フォーマットを決定した。

平成 28 年 9 月 2 日に創立 70 周年を迎え、新ロゴマークの製作、記念誌の刊行準備、70 周年記念表彰式等の記念行事を実施した。

各事業については、以下のとおり；

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイトを運営し、競技会や規程の改正などの情報を迅速に広報した。
- ② 競技会の実施要項や成績速報、講習会の案内などを迅速に掲載するとともに、『馬術情報』とウェブサイトをクリックして広報の充実を図った。
- ③ 競技会規程の改定に伴い、JEF 情報システムを一部改良した。

(2) 機関誌発行

- ① 情報を的確に伝達し、馬術の振興および各種記録の保存に資するため、月刊機関誌『馬術情報』を刊行した。
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、購読希望者に対し頒布した。

(3) 馬術関係資料の作成・配布

- ① 各種規程集および日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。
- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供した。特に、朝日新聞、神戸新聞社、山梨放送、山梨日日新聞、静岡新聞、日本放送協会、静岡放送には大会の後援を依頼し、広報を充実させた。また、NHK の全日本障害パート I 放映、BS11 の全日本ジュニア馬場放映等に協力した。

(4) マーケティング活動

- ① 5 社が最上位スポンサーであるオフィシャルパートナーに、3 社がオフィ

シャルサポーターに、1社がオフィシャルサプライヤーになった。

- ② パートナーシッププログラムを適切に実施した。
- ③ 日馬連の新ロゴマークを製作し、JEF ポスター、主催大会、表彰式等において展開した。
- ④ JEF オリジナルカレンダーを製作し配布した。
- ⑤ 馬術振興策として、全日本ヤング総合および全日本障害パート I の集客策や女性向け写真教室、トークイベント「JRA 馬事公苑の思い出」等を実施した。

(5) 動画配信

インターネットを活用し、競技会のライブ配信を 18 回（他団体主催 8 回を含む）実施した。

(6) 各種表彰

- ① 名誉総裁表彰として、馬術界に特に多大な貢献のあった団体(1)および個人(1)を表彰した。
- ② 永年に亘り馬術界に功績のあった人馬 13 名（功労者 8 名、地域功労者 5 名）15 頭を表彰した。また、国内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬 4 名 8 頭を表彰した。
- ③ 特別表彰として、リオ・オリンピック出場選手、出場馬の所有者をそれぞれ 10 名および世界大学馬術選手権の個人総合優勝者を表彰した。
- ④ 競技馬の資質向上のため、優秀な成績を収めた乗馬に対して飼育奨励金を交付した。
- ⑤ 競技馬の資源確保および調教技術向上を図るため、優秀な成績を収めた内国産馬（元競走馬を含む）に対して飼育奨励金を交付した。
- ⑥ 優秀な成績を収めた内国産乗用馬の生産者に対して感謝状を贈呈した。

(7) NF 活動の推進（National Federation:国内を統括するスポーツ団体）

- ① （公財）日本オリンピック委員会および（公財）日本体育協会の会議等に積極的に参加した。
- ② FEI およびアジア馬術連盟の活動に参画し、国際情報を迅速に収集し、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。FEI と緊密に連携し、国際的に活動する選手を支援した。また、スポーツ庁事業を活用して、I F ポスト獲得のための海外派遣（2 名）や、FEI における実務研修（1 名）を実施した。
- ③ FEI 総会を東京にて開催した。76 カ国、309 名の参加があり、東京オリンピックの競技フォーマットを決定した。

(8) 馬術基盤の維持拡大

- ① 組成団体に対しその加盟する団体が所有する馬匹について、飼育費助成および優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟および組成団体等の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 内国産馬の振興を図るため、内国産馬限定競技を主催競技会に組み入れるなど、内国産馬の活用を促進した。

(9) 創立 70 周年記念事業

- ① 広報委員会内に記念誌編纂委員会を設置し、記念誌の企画・編集等を行った。
- ② 周年記念表彰式として、招待者数の増加および会場規模の拡大をし、ショーアップした内容で華やかに開催した。

2. 会員と乗馬の登録

- ① 選手や指導者あるいは団体の活動をサポートするため、登録会員（6,959:個人 6,312、県馬連所属団体 381、組成団体所属団体 266）、賛助会員 1 および乗馬（3,877）の登録を行った。
- ② FEI 公認競技会に参加する人馬および競技役員の FEI 登録事務を実施した。
- ③ 「JEF 情報システム」を活用し、登録における会員サービスの向上および事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定、各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定および改廃を行った。また、FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 審判員等技術役員資格者の認定および資格保持者の技術向上のため講習会を実施（8 回）するとともに、都道府県等が開催する講習会を公認（16 回）した。
- ② 障害馬術競技で使用するコースの設計および設営を担うスペシャリストとしてのコースデザイナー講習会を開催（2 回）し資格を認定した。
- ③ 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催（1 回）した。
- ④ 国際競技役員養成のための FEI 公認講習会を開催（3 回）した。

(3) 指導者資格

- ① 日本体育協会公認スポーツ指導者
（公財）日本体育協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムによる日体協公認馬術コーチ養成専門科目講習会を開催し、馬術に特化した馬術コーチ・指導員を増員した。
- ② 日本馬術連盟認定指導者
馬術指導者の資格認定・更新および専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムによる JEF 認定指導員養成講習会を開催し、指導者（24 名）を増員した。

(4) 選手の資格認定

主催・公認競技会および国際競技会参加のための騎乗者の資格認定・登録を行った（A 級 46 名、B 級 475 名、C 級 103 名）。
都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための審査会（B 級 33 回、C 級 36

回)を規程に基づいて公認した。

(5) 競技会の公認

JEF 公認競技会のカテゴリー制・馬のグレード制を円滑に運営し、活性化に努めた（障害 110、馬場 61、総合 8、エンデュランス 19：合計 198）。

4. 選手の強化

(1) 選手強化対策

- ① リオ・オリンピック出場人馬の強化のため、海外コーチングチーム（ジェネラルマネージャー 1 名、シニアマネージャー 3 名）を設置した。
- ② リオ・オリンピック代表候補選手および代表選手に強化費を支給した。
- ③ 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外からコーチを招聘して強化訓練を実施した（障害 1、馬場 1、総合 3）。また、海外強化合宿を実施した（総合 3 回）。
- ④ 優秀な成績を上げた選手をナショナルチームメンバーに認定した（障害 12 人馬、プログレス 15 人、プログレスジュニア 23 人・馬場 8 人馬、プログレス 22 人、プログレスジュニア 26 人・総合 5 人、プログレス 6 人、プログレスジュニア 12 人）。

(2) ジュニア育成

- ① 国際レベルの選手を育成するため、ヤング・ジュニア層の発掘および強化のため研修会を開催（11 回）するとともに、海外の競技会・強化訓練等に若手選手等を派遣した（障害 3 回、馬場 2 回、総合 2 回）。
- ② ジュニアアスリート担当の JOC 専任コーチングディレクターを 2 名（馬場 1、総合 1）設置し、将来を担う若手の育成を図った。

(3) ナショナルトレーニングセンター（NTC）の活用

- ① 文部科学省が進めるナショナルトレーニングセンター中核拠点施設整備の馬術競技強化拠点として御殿場市馬術・スポーツセンターを活用した（23 回、内 JEF11 回）。
- ② 医科学サポートに関わる実験データ収集として、手綱-ハミ間における張力測定および映像撮影を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

全日本障害馬術大会（パート I、パート II、ジュニア）、全日本馬場馬術大会（パート I、パート II、ジュニア）、全日本総合馬術大会（パート I、ヤング・ジュニア）、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、障害・馬場の全日本ジュニアおよび全日本ヤング総合馬術大会は JOC ジュニアオリンピックカップ大会として主催した。

(2) 競技会の共催

- ① 第 71 回国民体育大会馬術競技（岩手県奥州市）を文部科学省他の団体とともに共催した。
 - ② 全日本学生馬術大会 2016 および第 88 回全日本学生馬術選手権大会・第 52 回全日本学生馬術女子選手権大会について、全日本学生馬術連盟とともに共催した。
- (3) FEI 公認競技会
- ① JEF 主催により、FEI 公認馬術大会を 5 回（チルドレン障害 1、馬場 1、総合 3）開催した。
 - ② 日本国内で会員団体が主催する FEI 公認馬術大会 14 大会（障害 7、馬場 1、総合 1、エンデュランス 5）の開催を支援した。
- (4) ドーピングの防止
- ① 打ち合わせ会等での関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。
 - ② 主催競技会（15 頭）および FEI 公認大会（17 頭）において馬ドーピング検査を 32 頭に実施した。公認大会において陽性馬が 3 頭（障害 1 頭、エンデュランス 2 頭）あり、規程に基づき処分した。
 - ③ 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と協力して、競技者のドーピング検査を 18 名に実施し全件陰性だった。

6. 国際競技会への派遣・支援

- (1) 国際競技会等へ選手・役員を派遣（障害 8、馬場 1、総合 1）し、競技力向上および海外情報収集に努め、併せて国際交流・親善を深めた。
- (2) リオ・オリンピック
 - ① 障害馬術は、団体 4 人馬が出場した。団体戦は決勝に進むことができず、13 位だった。武田麗子選手&バルドリーノは、個人戦第 3 次予選に進んだが、競技途中で棄権した。
 - ② 馬場馬術は、団体 4 人馬が出場した。団体戦決勝に進むことができず、11 位だった。
 - ③ 総合馬術は、個人枠で 2 人馬が出場した。大岩義明選手&ザ・デュークオブカヴァンは、個人戦決勝に進み、合計減点 77.0 で 20 位となった。北島隆三選手&ジャストチョコレートは、クロスカントリーを完走したものの、インスペクションを棄権した。
- (3) 平成 28 年度はワールドカップ日本リーグ優勝および 2 位の人馬が CSI-W Final へ参加しなかったため、輸送支援は実施しなかった。
- (4) 世界各国における FEI 公認馬術大会に参加する日本選手（障害 30 名延 1,160 頭、馬場 8 名延 47 頭、総合 6 名延 53 頭、エンデュランス 1 名延 5 頭）を支援した。
- (5) 国際馬術基盤強化推進支援事業（日本中央競馬会特別振興資金事業）
 - ① リオ・オリンピック障害馬術代表人馬選考合宿および馬場馬術代表人馬選考競技会をドイツにて開催した。

- ② リオ・オリンピック参加馬匹輸送を実施した。
- ③ リオ・オリンピック代表候補選手および代表選手に強化費を交付した。
- ④ 競技力の強化のため、国際馬場馬術大会を1回、国際総合馬術大会を2回開催した。

7. 東京 2020 大会の準備

(1) 開催準備

- ① クロスカントリーコースデザイナーが来日し、会場予定地について、東京 2020 大会組織委員会、東京都とともに協議した。
- ② 農林水産省と検疫に関する打ち合わせを行った。
- ③ 会場ブロックプランの打ち合わせを、東京 2020 大会組織委員会、東京都および日本中央競馬会と行った。

(2) 競技力強化

東京 2020 大会強化対策プロジェクト等を開催し、東京 2020 大会強化方針を定め、その実現に向け日本中央競馬会と協議した。

8. その他

登録団体会員(1)および登録個人会員(1)に検査予防接種実施要領違反および会員倫理規程違反があり、定款第9条に基づき臨時社員総会において除名処分とした。

(資料4) 会員と乗馬の登録 (2 関連)

(1) 会員登録数

| 区 分 | H28. 3. 31 (A) | 入会 | 退会 | H29. 3. 31 (B) | 差引増減 (△減) | 対前年比 (B/A) |
|----------------|-------------------|-----|-----|-------------------|--------------|---------------|
| ① 正会員 | 55 | 0 | 0 | 55 | 0 | 100.00 |
| イ. 都道府県馬術連盟 | 47 | 0 | 0 | 47 | 0 | 100.00 |
| ロ. 組成団体 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | 100.00 |
| ハ. 学識経験者 | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | 100.00 |
| ② 登録会員 | 6,955 | 601 | 597 | 6,959 | 4 | 100.06 |
| イ. 個人 | 6,312 | 584 | 584 | 6,312 | 0 | 100.00 |
| ロ. 県馬連に所属する団体 | 377 | 10 | 6 | 381 | 4 | 101.06 |
| ハ. 組成団体に所属する団体 | 266 | 7 | 7 | 266 | 0 | 100.00 |
| 全日本学生馬術連盟 | 80 | 0 | 0 | 80 | 0 | 100.00 |
| 全日本高等学校馬術連盟 | 97 | 0 | 7 | 90 | △ 7 | 92.78 |
| 日本乗馬少年団連盟 | 61 | 4 | 0 | 65 | 4 | 106.56 |
| 日本社会人団体馬術連盟 | 28 | 3 | 0 | 31 | 3 | 110.71 |
| ③ 賛助会員 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 100.00 |

(2) 乗馬登録数

| 区 分 | H28. 3. 31 (A) | 登録 | 抹消 | H29. 3. 31 (B) | 差引増減 (△減) | 対前年比 (B/A) |
|-------|-------------------|-----|-----|-------------------|--------------|---------------|
| 乗馬登録数 | 3,880 | 562 | 565 | 3,877 | △ 3 | 99.92 |

(3) FEI登録数

| 区 分 | 選手 | 馬匹 |
|---------|-----|-----|
| 障害馬術 | 99 | 108 |
| 馬場馬術 | 40 | 44 |
| 総合馬術 | 21 | 36 |
| エンデュランス | 20 | 19 |
| 軽乗 | 0 | 0 |
| パラ馬術 | 0 | 0 |
| 合 計 | 180 | 207 |

(4) 平成28年度 FEIパスポート (リコグニションカードを含む) 交付・更新・変更数

| | |
|------|----|
| 新規交付 | 23 |
| 更 新 | 30 |
| 変 更 | 39 |
| 再発行 | 3 |

(うちマイクロチップ埋込み 2件)